

平成27年度 第7回豊田市商業振興委員会会議録

【日 時】 平成28年3月14日 午後3時00分～5時15分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】 〈委員〉

尾碕 眞 [愛知学院大学商学部商学科教授 博士]
服部 正雄 [元トヨタ生活協同組合 特別顧問]
大橋 宏 [豊田信用金庫 部長 中小企業診断士]
松永 郁也 [豊田商工会議所 常議員]
河原 郁子 [とよた下町おかみさん会 平成24年度会長]
澤田 恵美子 [豊田市消費者グループ連絡会会長]

〈事務局〉

原田 裕保 [豊田市産業部部長]
寺澤 好之 [豊田市産業部副部長]
三浦 浩 [豊田市商業観光課長]
長江 洋一 [豊田市商業観光課副主幹]
鈴木 啓介 [豊田市商業観光課担当長]
寫 和典 [豊田市商業観光課主査]
水野 宏美 [豊田市商業観光課主査]

【欠席者】 杉田 雅子 [株式会社 杉田組 ブルーベリー事業部取締役]
松永 郁也 [豊田商工会議所 常議員]

【傍聴者】 なし

【次 第】

開 会

- 1 部長あいさつ
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 協議事項
 - (1) 第3期 豊田市駅前商業協同組合活性化計画について
 - (2) 第2期 旭商工会活性化計画について
- 5 報告事項
 - (1) 豊田まちづくり(株)商業活性化推進3カ年計画に基づく平成27年度計画変更について
 - (2) 豊田まちづくり(株)商業活性化推進3カ年計画に基づく平成28年度事業計画について
- 6 その他
平成28年度 商業振興委員会開催予定について (案)

【会議録（要約）】

- 1 部長あいさつ
産業部長よりあいさつ
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
事務局より説明
- 3 委員長あいさつ
委員長よりあいさつ
- 4 報告事項
(1) 第3期 豊田市駅前商業協同組合活性化計画について
豊田市駅前商業協同組合から資料について説明

【主な質疑応答】

委員

- ・周辺の商店街との統合で期待されている効果及び課題は。

豊田市駅前商業協同組合

- ・40に満たない会員数で、マンパワーが足りない。周辺を含めると会員が約70人になる。現状では、役員の担い手がいなく、自分も10年理事長に就いている。会員数が増え、役員が1期ずつ交代していくのが理想。
- ・隣の発展会では事業が街路灯の維持管理のみで当商店街とは会費に差があり、総会で統合に反対があったと聞いている。活動を縮小している発展会では前向きな検討が難しい。

委員

- ・郊外の商店街の理事長をやっているが、後継者がいない等同じような問題を抱えている。再開発事業により駅前が変わろうとしているので、商店街も頑張っしてほしい。現状やっていることが精一杯だろうが、個店が力をつける事業を地味でも続けることが大事。一店逸品運動など、個々のお店がついてくるもので、やろうという意欲が出てくる事業がよい。

委員

- ・活性化の指標として、コモ・スクエア前の歩行者数を挙げている。来街者増と個店の売上増に相関関係はあるのか。

豊田市駅前商業協同組合

- ・通行量の増加ほど売上増加に結びついていないのが現状。コモ・スクエアのスポーツジム、コンサートホール及びあそべるとよたプロジェクトへの集客などの部分で来街者は伸びている。再開発事業を実施して、北地区側の商店が閉じている中で、よく売上が下がらなかったという状況。

委員

- ・イベント的ではなく、地道にやっていると将来につながらない。昔と比べて家業が安定していないので、息子に継がせない方が幸せという時代になっている。事業継承について、何が問題となっているか実態調査をされたらどうか。

豊田市駅前商業協同組合

- ・現在、中心市街地で実施しているリノベーションまちづくり事業の中で10年後も継続して事業を実施しているかという調査をしたところ、65%程度しか事業者として残らない状況であった。駅前商業協同組合では、個人事業主は3店のみで、他はチェーン店や銀行という構成になっている。

委員

- ・再開発施設開業後入居テナントはチェーン店か。

豊田市駅前商業協同組合

- ・現時点では分からないが、大型ショッピングセンターに入るようなテナントよりも豊田市の駅前にしかないものに出店をお願いしたいとは思っている。

委員

- ・アンケート調査通りで、特色があるお店が少なく、夜間に営業しているお店が多く、昼間はランチ営業している飲食店くらいでお店の数が少ない。利用者の分析はできているがどうやって達成するのか。
- ・高齢者施設の入居者が松坂屋に買い物に行くついでに、商店街でも買い物をしてくれるだろうか。

豊田市駅前商業協同組合

- ・商店街の施設ではないので、出店テナントについては分からないが、入れ替えを担う団体には意見をしていきたい。
- ・コモ・スクエアの1階にある飲食店が駅前通りから入店できるようになった。開業から7年かけてお願いしてきたことで、今後も駅前通りを意識した事業を周辺施設に働きかけていきたい。

委員

- ・商店街の立地や実施中の再開発事業を踏まえて、豊田市の顔となるものを期待している。個店の力をどうアップすると同時に、力のあるお店に来てもらうことも駅前の活性化には必要。

委員

- ・活性化を図るための対象者は。新規の来街者をターゲットとしていくのか。

豊田市駅前商業協同組合

- ・このまちの中で新しく来た人に巡回してもらえることを期待している。

委員

- ・周辺商店街と統合を検討するにあたりどのエリアを考えているか。

豊田市駅前商業協同組合

- ・北は喜多町駐車場から駅前通りまでの間、東はひまわり通りまでと名古屋銀行周辺の飛び地になっている駅東発展会で北地区再開発ビルに関連している地域で検討したい。

申請者退出

委員

- ・再開発施設のイメージが1～2年は見えて来ないため、商店街活動はしばらく停滞気味になりそう。

委員

- ・豊田市の顔になる商店街なので期待したい。目視でもよいので、回遊性を測るために来た場所と行く場所が分かるとよい。

委員

- ・豊田市駅前には駐車場があり、公共交通機関でも来られる場所で、イベントがあると人は歩いている。どこかに寄ってくれば良いのだが。

委員

- ・豊田市駅前には立体駐車場、地下駐車場があるが青空駐車場に比べて利用するのに煩わしさがある。

委員

- ・スポットでの整備になると特定の場所に来て帰ってしまう。コモ・スクエア、北地区再開発施設などバラバラだとつながりなく、近隣とまとまって意識が統一できるとよい。

委員

- ・利用者調査によると、品揃え、接客の調査項目が低くなっている。シネコンに来る35万人が映画を見終わったときに商店街を利用してもらえるよう、調査結果を活かしてもらいたい。

委員

- ・お客様がどのような理由で利用しているかをもう少し分析して求められるものを提供してもらいたい。

(2) 第2期 旭商工会活性化計画について 旭商工会から資料について説明

【主な質疑応答】

委員

- ・旭地区まちづくり計画との整合とあるが、計画の中では人口減少や高齢化ということをどのように捉えているのか。地域の生き残り策としてどのようなものが挙げられているのか。

旭商工会

- ・来年度から5年間の計画が始まるが、旭地区では空き家対策が他の中山間地域よりも進んでいる。しかし、空き店舗対策は不十分であるため、その点を商工会として取り組んでいく。仕事の紹介も計画に盛り込まれているため、整合はとれている。

委員

- ・平成24年センサスの商工業者数144の内訳は。
- ・地域住民のニーズは活性化計画の中でどのように反映されているのか。

旭商工会

- ・製造業はほとんどなく、商業・サービス業が約8割、残りが建設業。
- ・商業者の多くが5名以下の家族経営であり、地域が抱える課題に対処できるほどマンパワーが足りない状況。それらの課題は商業者各々の対応となるため、活性化計画に挙げるのは難しい。

委員

- ・雇用が無いと需要が生まれないので、雇用を生むような手立て、工場があるとい。また、外から人を呼ぶためには、観光資源を見つめ直すことも大事。

旭商工会

- ・商工会としても交通インフラや宅地供給、工場誘致の問題を訴えたいのだが、財源的な問題もあり、そこまで手が回っていないのが現状。

委員

- ・人をどうやって呼ぶのか。そこにフォーカスを当てる必要があるのでは。それらの対策を計画に盛り込んでいくべき。

旭商工会

- ・一時的な集客はあっても全体的な底上げには結び付いていない。よって、夜間人口を増やす、居住人口を増やす必要があるが、手立てがない状況。少なくとも商業者の士気は変えていかないといけない。特に若手の後継者が現状を理解した上で行動できるような支援が必要。

委員

- ・住んでいる人が生活できないと厳しい。
- ・旭地区にはしだれ桃や鮎や自然薯など、食にしても観光にしても良いものがたくさんある。これらを上手にPRできないのか。市としても各地区の特徴を生かしたPRをして欲しい。
- ・しだれ桃を見に行っても、途中で座れる場所もないし、立ち止まるところもない。なぜ途中で土産屋等が無いのか。人が来るような工夫が大事。

委員

- ・おかみさん会で年2回ほど旭地区を訪れている。繋がりが深い。
- ・特産品は、指摘の通りすぐに食べられる方が良いと思う。
- ・高齢者世代は近隣での癒しを求める傾向があるので、その世代を取り込むことを考えてみては。

委員

- ・ 個店の魅力アップが重要。その方針で進めていただきたい。
- ・ 個店をピックアップしてミラサポ事業にて専門家を呼ぶことを考えてみては。空き店舗対策も必要業種や管理方法など専門家の意見を聞きながら進めると良い。
- ・ 販路拡張をしないと厳しい。中津川市の瀬戸地区のタケノコのように特産品の付加価値を上げる取組を考えて欲しい。

事務局

- ・ 旭地区は移住者が多い。新聞販売店が廃業した際には移住者がその事業を引継ぎ軌道に乗っている。そういうところと連携ができれば。
- ・ 木の駅プロジェクトで商店街のみで使用できる商品券を発行している。これは商店街に還元できる事業であるし、商店街からも発信すればいいと思う。

申請者退出

委員

- ・ まちづくり計画そのものに商業者が納得して受け入れているのか。地域では様々な取組を行っているので、みんなでぶつけ合ってやれば。

事務局

- ・ 合併した中で移住者が一番多いのが旭地区。観光協会も元気がある。大きな可能性を秘めている地区なので、上手に組み合わせられれば。
- ・ 移住者は増えてきているが、それ以上に減る方が多いので人口は全体的には減ってきている。しかし、資源は多いので頑張れる要素は多い。

委員

- ・ 週末だけでも山間部に泊まるのは良いなと思っている。そういった流れを作りながら、最終的に移住に繋がればと思い、移住者を発掘するような取組を考えている。

委員

- ・ 現状の対策をグレードアップしながら、新たな取組をやれば更によくなる。

5 報告事項

(1) 豊田まちづくり(株)商業活性化推進3カ年計画に基づく平成27年度計画変更について

事務局より説明

(2) 豊田まちづくり(株)商業活性化推進3カ年計画に基づく平成28年度事業計画について

豊田まちづくり(株)より説明

6 その他

平成28年度 商業振興委員会開催予定について報告